

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	埼玉県
-------	-----

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	さいたま市立片柳中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	4	4	0	11	22
生徒数	117	158	144	0	419	

研究の概要

1. 研究主題

<p>「個に応じ、個を伸ばすための指導方法・指導体制の工夫改善の研究」          - 創意を生かした教育課程を編成し、生徒一人一人に確かな学力を身に付けさせるための実践研究 -</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>モジュール授業.....第1学年 数学科、英語科          (生徒の理解度に差が生じやすく、基礎基本の定着を図るため)          習熟度別指導.....第2学年 数学          (生徒の習熟の程度の差を少なくするため)          少人数指導.....全学年 国語科、数学科 英語科、技術・家庭科          (個に応じた指導を行い、学力の定着を図るため)          選択教科 .....全学年(選択履修幅の拡大と適切な教材開発のため)          ステップアッププラン.....全学年・全教科          (評価Cや評価Cとなるおそれのある生徒が評価Bになるための手立て)          ドリームプラン.....全学年・全教科          (通常の一斉授業での個に応じ個を伸ばすための指導方法の工夫改善策)</p>
--

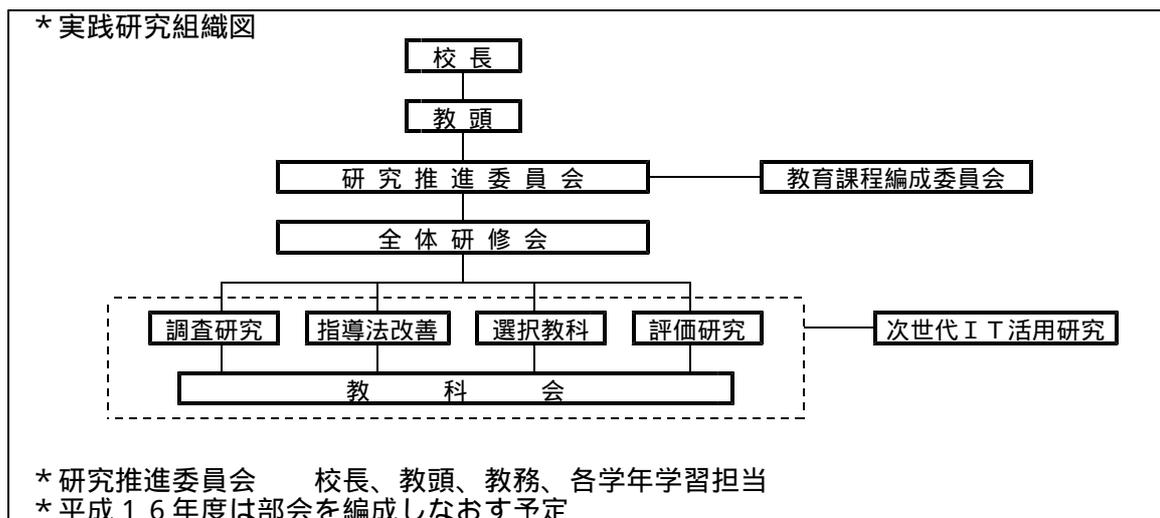
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ          「個に応じ、個を伸ばすための指導方法・指導体制の工夫改善の理論研究及び実践」          仮説          生徒一人一人にきめ細かな、個に応じた指導の充実を図るための指導方法、指導体制の工夫・改善を行えば、生徒は意欲的に学習に取り組むようになり、確かな学力を身に付けることができる。          研究の内容・方法          理論研究         <ul style="list-style-type: none"> <li>研究計画立案、研究組織作り</li> <li>生徒の変容調査の実施(学習に対する意識)</li> <li>地域、保護者の意識調査</li> <li>カリキュラムの検討</li> <li>指導者を招聘しての職員研修</li> <li>先進校視察</li> <li>資料の収集</li> </ul>         実践研究         <table border="0"> <tr> <td>モジュール</td> <td>・時間割の作成</td> <td>・1年の数学と英語で実践</td> </tr> <tr> <td>少人数指導</td> <td>・週51時間のTT実施</td> <td>・1年国語科で20人編成での指導</td> </tr> <tr> <td>選択教科</td> <td>・選択履修幅の拡大</td> <td>・ガイダンス機能の充実</td> </tr> <tr> <td>評価、計画</td> <td colspan="2">・評価規準の作成。定期テストのあり方。シラバスの作成。</td> </tr> </table> </p>	モジュール	・時間割の作成	・1年の数学と英語で実践	少人数指導	・週51時間のTT実施	・1年国語科で20人編成での指導	選択教科	・選択履修幅の拡大	・ガイダンス機能の充実	評価、計画	・評価規準の作成。定期テストのあり方。シラバスの作成。	
モジュール	・時間割の作成	・1年の数学と英語で実践											
少人数指導	・週51時間のTT実施	・1年国語科で20人編成での指導											
選択教科	・選択履修幅の拡大	・ガイダンス機能の充実											
評価、計画	・評価規準の作成。定期テストのあり方。シラバスの作成。												

平成 15 年度	<p>テーマ 「個に応じ、個を伸ばすための指導方法・指導体制の実践研究」 研究の見通し モジュール授業... 25分と50分の特性を生かす指導計画による実践を行えば、生徒一人一人により確かな学力の定着を図れる。 少人数指導... 課題やコース別・習熟度に応じたクラス編制で指導を行えば、生徒一人一人に確かな学力の定着を図れる。 選択教科 ... 適切な教材開発を行い指導をすれば、生徒一人一人に確かな学力の定着を図れる。</p> <p>研究の内容・方法 モジュール授業... モジュールの特性を生かす指導計画の練り上げ、教材開発、実践を通して仮説の検証 少人数指導... 週1時間一斉授業とは別の単元を設定し2グループを同一教材で指導1年2年の国語にて実施、クラスを等質な2つのグループにわけ、効果的なチームティーチングの実施 習熟度別指導... 習熟度に応じたクラス編制(2年数学1クラスを2人の教員で対応) 選択教科 ... 選択履修幅の拡大 個を伸ばすための適切な教材の開発</p> <p>当初の予定と変わったところ 習熟度別指導(数学)で、2クラスを3コースに分けるところを1クラスを2コースに分けるようにした。 理由： 生徒の希望を100%いかす 一斉授業より確実に少人数にする 指導時期に困らない 生徒の学習状況を熟知している教員が教えられる など 少人数指導(国語)では当初1年生だけの実施予定だったが2年生でも実施した。 理由： 少人数指導を行った1年生に、昨年度の終わりにアンケートをとったところとても好評で「また行いたい」という意見が多かった。</p>
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 「生徒一人一人に確かな学力を定着させるための指導方法・指導体制の実践研究」 研究の見通し ・蓄積した研究資料をもとにモジュール授業や少人数指導の授業改善を行えば、より指導の効果を高め、生徒一人一人の基礎・基本や学ぶ意欲の定着につながる。 ・選択教科による履修幅の拡大、適切な教材開発による指導実践は、生徒の個性を生かし、基礎基本の定着、発展的な学習の習得等生徒一人一人に確かな学力を身に付けることができる。 ・習熟度別指導を行うことにより習熟度の差をなくし、生徒一人一人に確かな学力の定着を図ることができる。 ・ドリームプランを一斉授業で実施し、適切な時期にステップアッププランを行うことにより評価Cの生徒が減少し、生徒の意欲が高まり学力が向上する。</p> <p>研究の内容・方法 ・モジュール授業、少人数指導 ... 実践を通して仮説の検証を行う。 ・選択教科 ... 適切な教材の開発、蓄積と活用。実践を通して仮説の検証を行う。 ・ドリームプラン... 一斉授業の中で各教科ごとに学力向上のための手立てを考える。 ・ステップアッププラン... 評価・をとりそうな生徒をなくすために各教科で具体的な手立てを考える。</p> <p>学期末に生徒アンケートを行う。そのアンケートの中の「わかる率」を見て学力向上を計り、「わかる率」をアップさせることにより学力向上を図る。</p>
----------------	--

### (3) 研究体制



#### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

##### 1. 研究成果

\* 学力向上の成果を計る手立てとして、学期ごとに全生徒を対象に「授業が分かりやすいかどうか」の全数調査を行っている。本校のキャッチフレーズ「わかるできる がんばる 伸びる」にも象徴されるように生徒の「分かる率」が上昇することにより、生徒の学習意欲の高まりを計ることができると考えるが、毎学期ごとの調査では学年、教科により多少のばらつきはあるものの、全体として「分かる率」が上昇している。また全数調査の中の項目「授業への要望」により、教員の授業に対する意識が改善され 授業研究も熱心になり創意工夫の結果「分からない率」も 国立教育政策研究所による平成13年度小中学校教育課程実施状況調査（平成14年1月～2月）のなかの「授業の理解度」の数値より良い結果となっている。

##### 2. 今後の課題

\* 学力向上のためには少数の教科の授業改善、あるいは少数の教員の意識改革では向上しない。全教科、全教員の意欲が生徒を変え、学力向上へつなぐと考える。そこですべての教科で行っているステップアッププランやドリームプランの充実、実践によりさらにいきいきとした授業展開が必要と考える。  
 \* 習熟度別指導についてもいろいろ方法が考えられる。15年度は単元末に実施したが、生徒の習熟の程度によっては、単元の途中でも実施することがありうる。生徒の実態に応じて柔軟に対処していきたい。

#### 学力把握のための学校としての取組

##### 学力到達度調査

- \* さいたま市学力到達度評価テスト（2年生国語・数学・英語・社会・理科）  
11月
- \* 県数学基礎学力テスト（3年生）  
1月
- \* 定期テストに全国通過率のわかる問題を出題（数学）
- 授業のわかる喜び・楽しさをはかる
- \* 「（授業が）わかる」アンケート（全生徒）  
毎学期
- \* 習熟度別指導生徒アンケート（2年生 数学）  
毎回の習熟度別指導終了後
- \* 習熟度別指導保護者アンケート（2年生保護者）  
習熟度別指導指導途中
- \* モジュール授業実施後の生徒・保護者アンケート（1年生）  
モジュール授業終了後

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

	平成15年11月18日中間発表会 ・紀要作成・リーフレット作成 ホームページ作成 他校への説明・成果普及
7月	名古屋市立浄心中学校(1名)
10月	千葉県千葉市教務主任会(26名) 宮城県名取市増田中学校(2名) 愛知県一宮市教頭会(6名)
11月	富山県平村立平中学校(1名) 沖縄県石川市校長会(6名) 愛知県名古屋市立猪高中学校(1名)
12月	静岡県清水市清水第五中学校(1名)
1月	静岡県沼津市教育振興会(6名) 長崎県東彼杵町立彼杵中学校(1名) 静岡県富士市立吉原第三中学校(1名) 長崎県新魚目町立北魚目中学校(1名) 宮城県名取市立第二中学校(2名)
2月	愛媛県今治市教育長・学事係長
	雑誌への掲載
	内外教育 5月30日号 《25分授業、少人数指導で個を伸ばす》
	小学館「総合教育技術」10月号 《『学校行事レイアウト力』を高めるための校内研修のポイント》
	教育開発研究所発行「教職研修」11月臨時増刊号 《必要な指導時間をどう確保するか》 《習熟度別指導の実施と運営》
	明治図書「学校運営研究」12月号 《モジュール日課表の導入》

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               3学級以下                       4～6学級  
                                  7～9学級                         10～12学級  
                                  13～15学級                       16学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       数学                       理科  
                                  外国語                       音楽                       美術                       技術・家庭  
                                  保健体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無